

三重県初！

平成30年度から

小中学校に教員支援員を配置

～教育大綱に掲げた「教員が子どもたちと向き合う時間の確保」に向けて～

平成30年4月3日

教員を取り巻く状況

2016年度の小中学校教員の平均勤務時間

文部科学省教員勤務実態調査
(平成28年度)集計速報値

中学校	平日	土・日曜日	1週間	小学校	平日	土・日曜日	1週間
教諭	11時間32分	3時間22分	63時間18分	教諭	11時間15分	1時間7分	57時間25分
副校長・教頭	12時間6分	2時間6分	63時間36分	副校長・教頭	12時間12分	1時間49分	63時間34分
校長	10時間37分	1時間59分	55時間57分	校長	10時間37分	1時間29分	54時間59分

津市における長時間勤務縮減の主な取り組み

項 目	内 容	実施時期
統合型校務支援システムの導入	公簿作成の電子化	平成29年10月
庁内メール等事務処理の統一	事務文書のルール化	平成29年9月
各種会議、研修会の見直し	回数や参加対象者の見直し	平成29年7月
部活動指針の策定	休養日の設定	平成29年5月
定時退校日の設定	月1日～2日を各学校で設定	平成29年4月

教員支援員配置の経緯①

津市教育大綱で今取り組まなければならない優先事項の
3つの視点を明確化

教員が子どもたちと
向き合う時間の確保

組織的・機動的な
学校運営

まち全体で子どもたちを
支援する教育環境の整備

平成29年6月～8月に津市総合教育会議懇談会を3回開催

市長・教育委員会・学校現場（小中学校長会役員、職員代表）等との懇談

教員が子どもたちと
向き合う時間を
確保するための要望

人的支援

- 給食会計処理の負担軽減
- 特別支援教育支援員・スクールカウンセラー・臨時講師の増員

負担軽減

- 土日の部活動の縮減
- 業務の精選
- 校務支援システムの活用

教員支援員配置の経緯②

平成29年10月17日開催 津市総合教育会議

懇談会を受けて平成30年度以降の取り組みについて協議



教員が子どもたちと
向き合う時間を
確保するための方策

学校現場への人的支援の拡充

- 教員の業務をサポートするアシスタント
- 給食会計等の事務処理や徴収業務の負担軽減

平成30年度からの津市独自の取り組みとして
教員の業務を支援する**教員支援員**を配置

解消策

教員支援員の人材と配置先

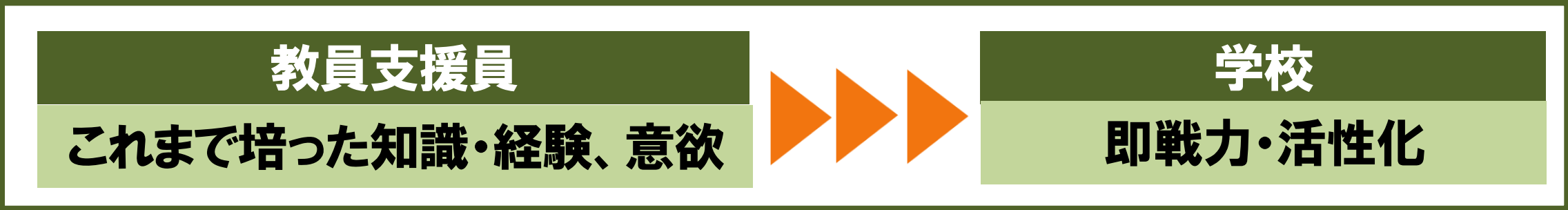
教員支援員の人材・配置人数

人材

再任用職員【平成29年度退職職員、再任用職員(更新)から希望者を配置】

配置人数

4人



配置先

地区ごとに児童生徒数が多い小中学校4校に各1名を配置

退職時の役職	性別	学校名	教員数	児童生徒数	学級数	地区
幼稚園長	女	一身田小学校	36人	662人	27	中
幼稚園長	女	千里ヶ丘小学校	32人	547人	21	北
副参事	男	橋北中学校	31人	544人	18	中
担当主幹	男	久居中学校	38人	524人	21	南

※児童生徒数等は平成29年5月1日現在の状況

教員支援員の業務内容

① 調査・統計等に係る事務に関する支援
各種調査の集約・データ入力、庁内メールの確認等

② 授業の準備に関する支援
学習プリントの印刷、理科実験の準備・片付け等

③ 学校行事等の準備・運営に関する支援
行事に必要な物品の準備、日程調整、運営等

④ 学校徴収金に係る事務に関する支援
学年費や給食費の会計処理、支払

⑤ 学校運営等に関する相談・助言
学校業務、行政制度に関する相談・助言等

⑥ その他学校長が必要と認める教員の事務に関する支援

事務作業



相談・助言



津市の教員支援員の特色

教員を直接支援

教員の事務作業を直接支援し、子どもたちと向き合う時間を確保

再任用職員を配置

- 市行政経験を生かした助言・相談
- 市や県、関係機関との連絡調整役

行政のルール
に精通



本人の希望 「学校現場で働いてみたい」

再任用を希望する全職員に
「小中学校に勤務する教員をサポートする業務」
の希望の有無を確認

希望する理由

- 子どもが好き
- 学校現場で働いてみたい
- 教育現場に関心がある

今後の展開

教員支援員に係る有効な活用と効果を検証

平成31年度以降、配置校の拡大検討へ

教育大綱の実現

子どもたちの学力を向上させるため、
教員が子どもたちと向き合う時間を確保します！

平成30年度当初予算額

1,059万円
※再任用職員4名の人件費